

岡山県感染症週報 2015 年 第 45 週 (11 月 2 日～ 11 月 8 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2015 年 第 45 週 (11/2～11/8) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 44 週 2 類感染症 結核 4 名 (40 代 女 1 名、70 代 男 1 名・女 1 名、90 代 女 1 名)
 5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (40 代 男)
 ジアルジア症 1 名 (60 代 女)
- 第 45 週 2 類感染症 結核 2 名 (30 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (小学生 女)
 5 類感染症 水痘 (入院例に限る。) 1 名 (10 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

- RS ウイルス感染症は、県全体で 43 名 (定点あたり 0.96 → 0.80 人) の報告があり、前週より減少しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 41 名 (定点あたり 0.80 → 0.76 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- 伝染性紅斑は、県全体で 17 名 (定点あたり 0.24 → 0.31 人) の報告があり、前週より増加しました。
- インフルエンザは、倉敷市で 2 名の報告がありました。

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、第 45 週に 1 名の報告があり、岡山県の 2015 年第 45 週 (～11/8) までの累計報告数は、61 名となっています。岡山県では、「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉、特にハンバーグ等は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 43 名 (定点あたり 0.96 → 0.80 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市 (2.07 人)、倉敷市 (0.73 人)、美作地域 (0.67 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。第 44 週までの全国の発生状況では、40 週から連続で患者報告数が増加しており、過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態です。この感染症は、例年秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、大人は軽い風邪程度で軽快しますが、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。ひきつづき今後の県内の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。
3. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 41 名 (定点あたり 0.80 → 0.76 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、倉敷市 (1.91 人)、備北地域 (1.50 人)、岡山市 (0.57 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [伝染性紅斑 \(リンゴ病\)](#)は、県全体で 17 名 (定点あたり 0.24 → 0.31 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多い状態で推移しています。地域別では、岡山市 (1.00 人)、美作地域 (0.33 人)、倉敷市 (0.09 人) の順で、定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は小児に多くみられ、特徴的な症状である頬の発しんが出現する 7～10 日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。妊娠中、特に妊娠初期に感染した場合は、胎児異常 (胎児水腫) や流産の危険があります。手洗い・うがいを励行するとともに、周囲で患者の発生がみられる時、妊婦の方は風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。
5. [インフルエンザ](#)は、倉敷市で 2 名の報告がありました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ週報](#)」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

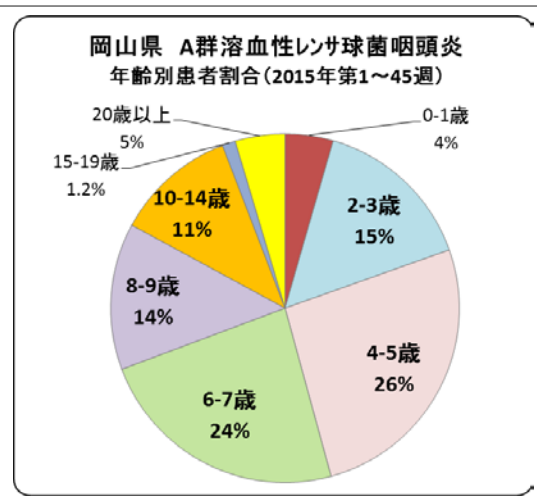
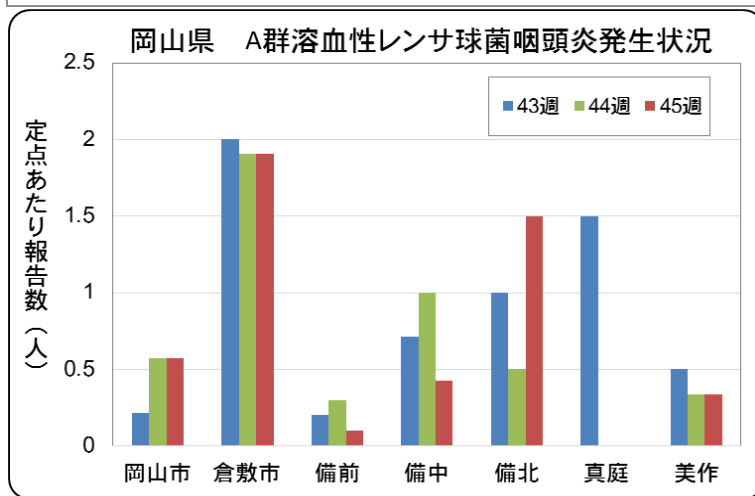
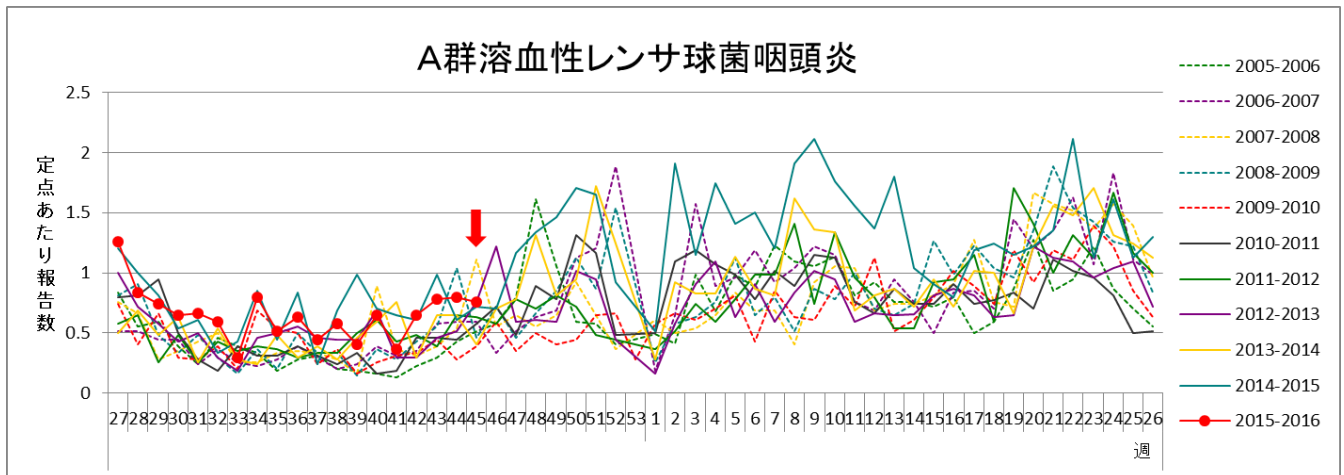
疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★★★
突発性発疹		★	百日咳		★
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少  : 1.1～2 倍未満の減少  : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加  : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

今週の注目感染症

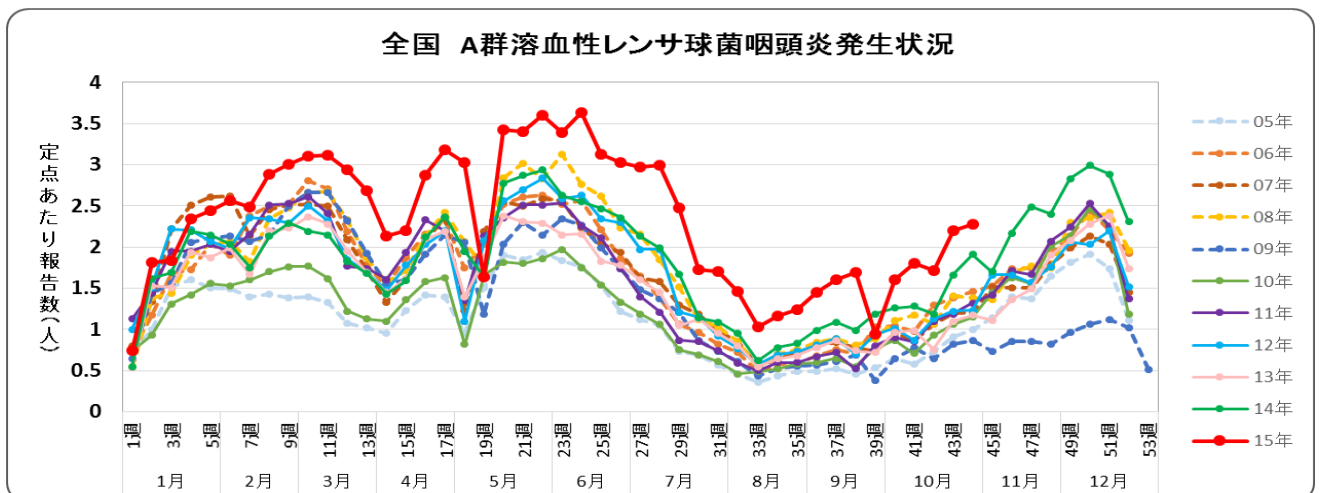
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【岡山県の発生状況】

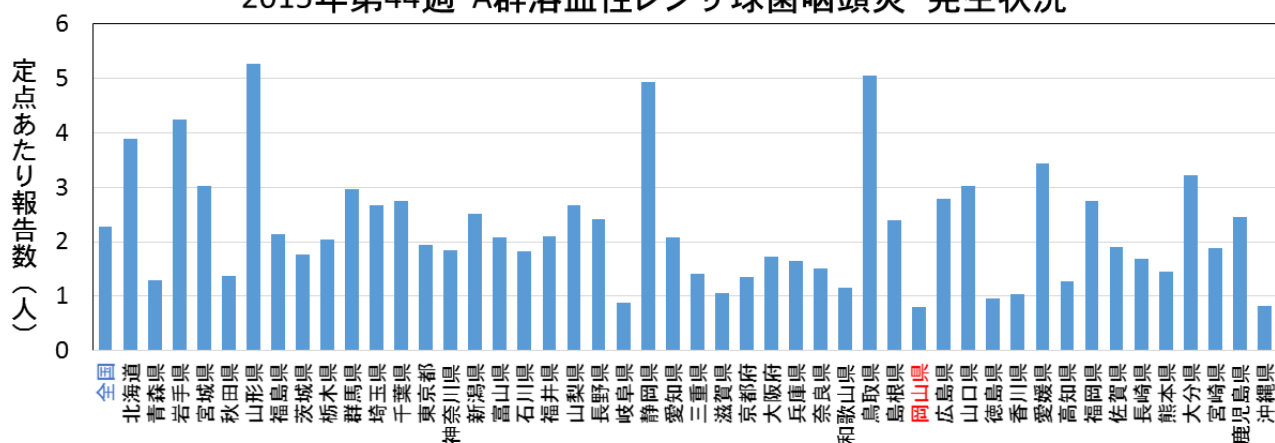


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で41名(定点あたり0.80→0.76人)の報告があり、第43週からほぼ横ばいで推移しています。地域別では、倉敷市(1.91人)、備北地域(1.50人)、岡山市(0.57人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に、備北地域(0.50→1.50人)では前週より大きく増加しています。2015年第1週からの年齢別累計割合は、4-5歳26%、6-7歳24%、2-3歳15%の順に多くっており、10歳未満の小児が全体の約83%を占めています。

【全国の発生状況】



2015年第44週 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



全国の2015年第44週までの発生状況を見ると、過去10年間と比較して患者の発生が多い状態で推移しています。第44週の定点あたり報告数は、2.28人であり、第40週から増加傾向にあります。都道府県別では、山形県(5.27人)、鳥取県(5.05人)、静岡県(4.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。また近隣県でも、多くの患者が報告されていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2015 年第 44 週 \(国立感染症研究所\)](#)

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは】

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A 群レンサ球菌による上気道感染症です。感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染や接触感染が主ですが、食品を介する経口感染もあるといわれています。そのため、家庭での兄弟間や、学校・保育施設などの小児の集団生活施設内での感染も多いとされています。季節的には、冬季及び春から初夏にかけて、2つの報告数のピークが確認され、就学前から学童期の小児に多い感染症です。

【症状】

潜伏期間は2～5日で、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしばおう吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。通常、発熱は3～5日以内に下がり、主症状は1週間以内に消失する予後良好な疾患ですが、合併症として、肺炎、髄膜炎、敗血症などの化膿性疾患、あるいはリウマチ熱、急性糸球体腎炎などの非化膿性疾患を生じることもあります。また、菌が産生する毒素に免疫がない場合は猩紅熱に発展する場合があります。猩紅熱では、発熱開始後12～24時間すると点状紅斑様、日焼け様の皮疹が出現し、針頭大の皮疹により、皮膚が紙やすり様の手触りになることがあります。

【治療・予防】

治療には、ペニシリン系抗菌薬が第一選択薬とされていますが、ペニシリンアレルギーがある場合は、マクロライド系やセフェム系の抗菌薬が投与されます。いずれの薬剤も少なくとも10日間は、確実に投与することが必要です。予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要であり、うがい・手洗いの実施や、咳エチケットなどの一般的な予防法が効果的とされています。

[A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは \(国立感染症研究所\)](#)

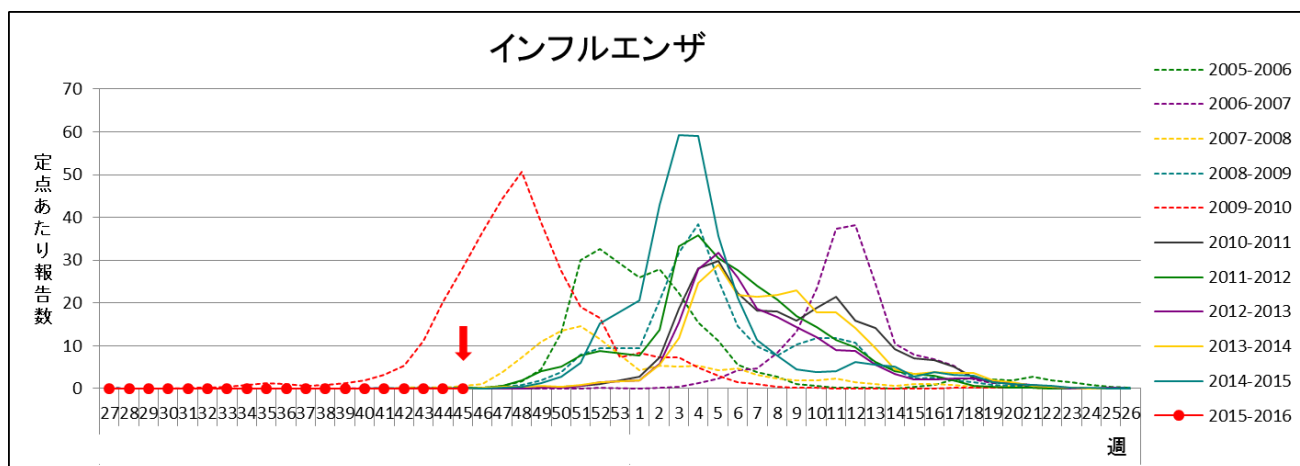
[IDWR 2012 年第 20 週 <注目すべき感染症> A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 \(国立感染症研究所\)](#)

インフルエンザ週報 2015 年 第 45 週 (11 月 2 日 ~ 11 月 8 日)

➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、倉敷市で 2 名の発生がありました。

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業、入院患者の報告はありませんでした。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、前週にひきつづき倉敷市で 2 名の発生があり、県全体では定点あたり 0.02 人となっています（84 定点医療機関報告）。県内の患者発生はまだ散発的で、少数にとどまっています。

第 44 週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は 0.11 人であり、発生はまだ散発的です。都道府県別では、沖縄県（1.16 人）、富山県（0.54 人）、福井県（0.44 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、すでに全国ではインフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業も報告されています。外出後は手洗いを励行し、感染予防を心がけましょう。

[IDWR 速報データ 2015 年第 44 週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

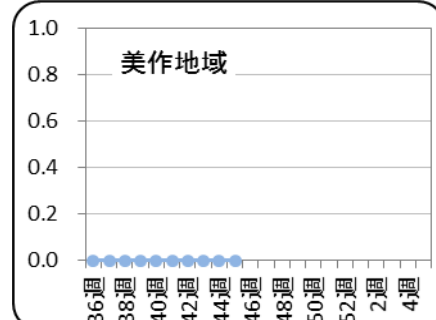
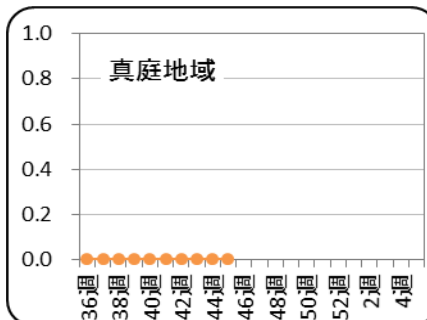
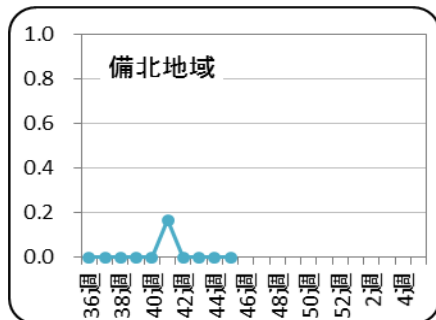
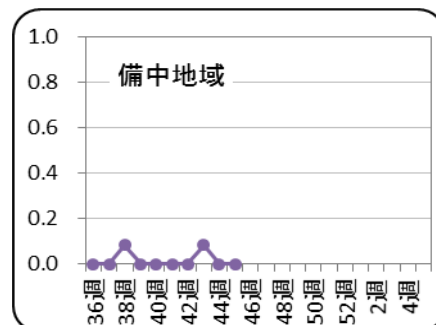
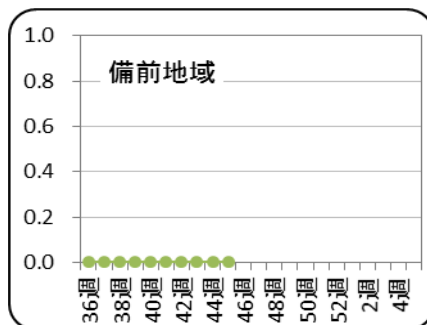
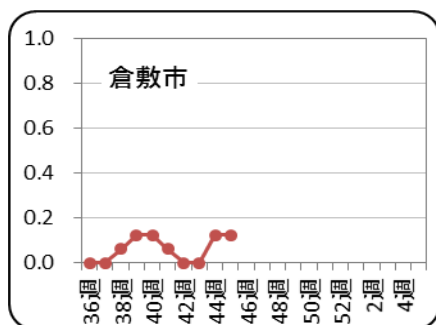
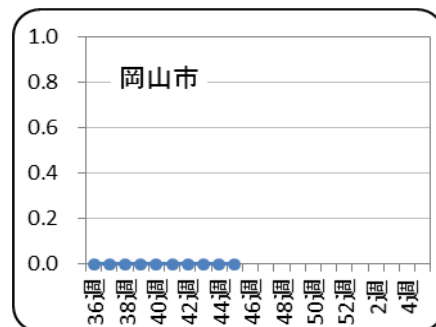
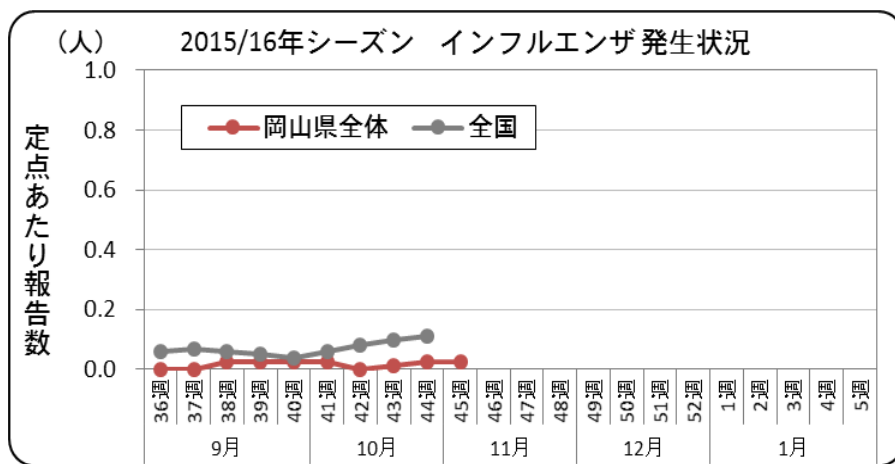
[平成 27 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	2	➡	備 中	患者数	—	➡
	定点あたり	0.02			定点あたり	—	
岡山市	患者数	—	➡	備 北	患者数	—	➡
	定点あたり	—			定点あたり	—	
倉敷市	患者数	2	➡	真 庭	患者数	—	➡
	定点あたり	0.13			定点あたり	—	
備 前	患者数	—	➡	美 作	患者数	—	➡
	定点あたり	—			定点あたり	—	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 ➡ : 1.1 未満の増減
 ➡ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加



2. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

3. インフルエンザウイルス検出状況

第45週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。

4. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

◆◆ インフルエンザの予防接種はお早めに！ ◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が出現するまで、2週間程度かかります。
本格的な流行がはじまる **12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。**
予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
流行するウイルスの型が変わるため、毎年、接種することが望めます。

ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数（定点把握）2015年 45週

（ 2015/11/02～2015/11/08 ）

2015年11月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	—	—	2	0.13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	43	0.80	29	2.07	8	0.73	1	0.10	—	—	1	0.25	—	—	4	0.67
咽頭結膜熱	5	0.09	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	0.76	8	0.57	21	1.91	1	0.10	3	0.43	6	1.50	—	—	2	0.33
感染性胃腸炎	270	5.00	46	3.29	93	8.45	53	5.30	25	3.57	12	3.00	13	6.50	28	4.67
水痘	16	0.30	5	0.36	4	0.36	—	—	6	0.86	—	—	—	—	1	0.17
手足口病	7	0.13	2	0.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	17	0.31	14	1.00	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.33
突発性発疹	19	0.35	11	0.79	6	0.55	—	—	2	0.29	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	34	0.63	15	1.07	3	0.27	3	0.30	—	—	—	—	2	1.00	11	1.83
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	6	0.50	3	0.60	—	—	2	2.00	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（－： 0 or 0.00） （空白：定点なし）

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 45週

（ 2015/11/02～2015/11/08 ）

2015年11月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	－	－	2	0.13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	5	0.09	－	－	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	0.76	8	0.57	21	1.91	1	0.10	3	0.43	6	1.50	－	－	2	0.33
感染性胃腸炎	270	5.00	46	3.29	93	8.45	53	5.30	25	3.57	12	3.00	13	6.50	28	4.67
水痘	16	0.30	5	0.36	4	0.36	－	－	6	0.86	－	－	－	－	1	0.17
手足口病	7	0.13	2	0.14	2	0.18	1	0.10	2	0.29	－	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	17	0.31	14	1.00	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	2	0.33
百日咳	1	0.02	－	－	－	－	1	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	34	0.63	15	1.07	3	0.27	3	0.30	－	－	－	－	2	1.00	11	1.83
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	6	0.50	3	0.60	－	－	2	2.00	1	1.00					－	－

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第45週 2015/11/02～2015/11/08)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	43	9	5	12	9	4	3	-	-	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	41	-	-	3	2	1	4	6	6	5	5	1	5	-	3
感染性胃腸炎	270	11	25	47	29	18	25	16	15	6	10	11	18	7	32
水痘	16	-	2	2	1	3	1	3	1	1	1	-	1	-	-
手足口病	7	-	1	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	17	-	-	1	2	1	1	6	3	1	-	2	-	-	-
突発性発疹	19	-	9	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	34	-	-	3	2	5	4	4	6	1	3	-	3	1	2

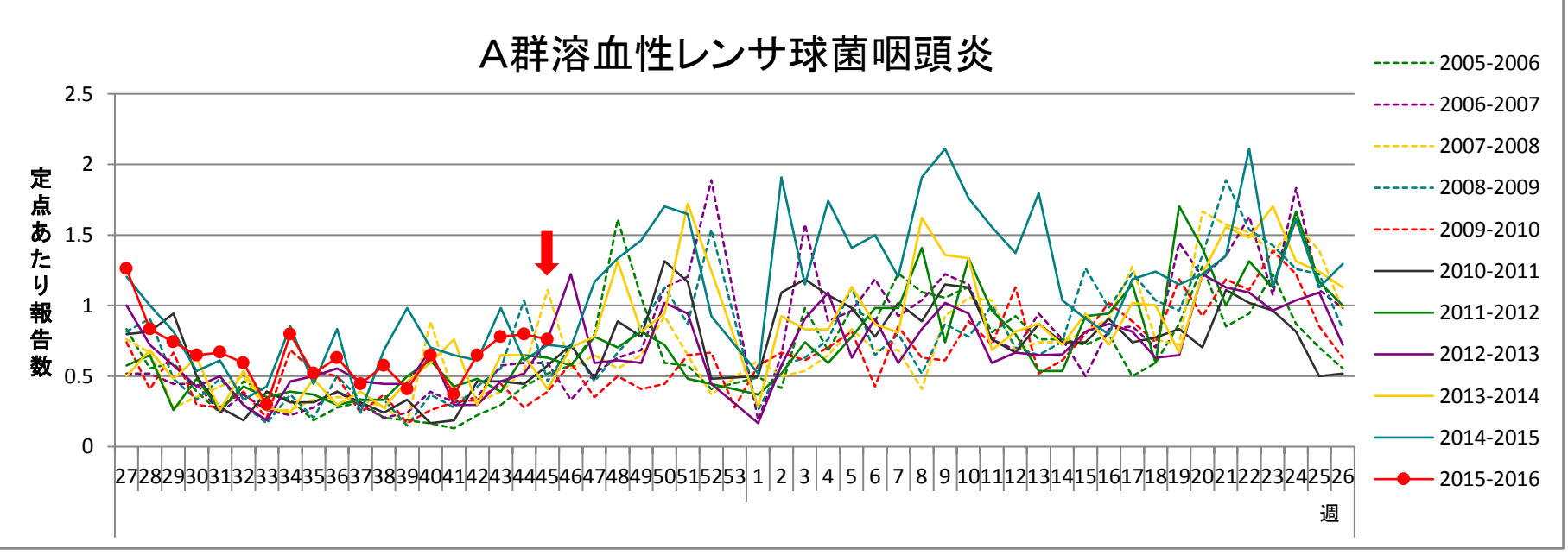
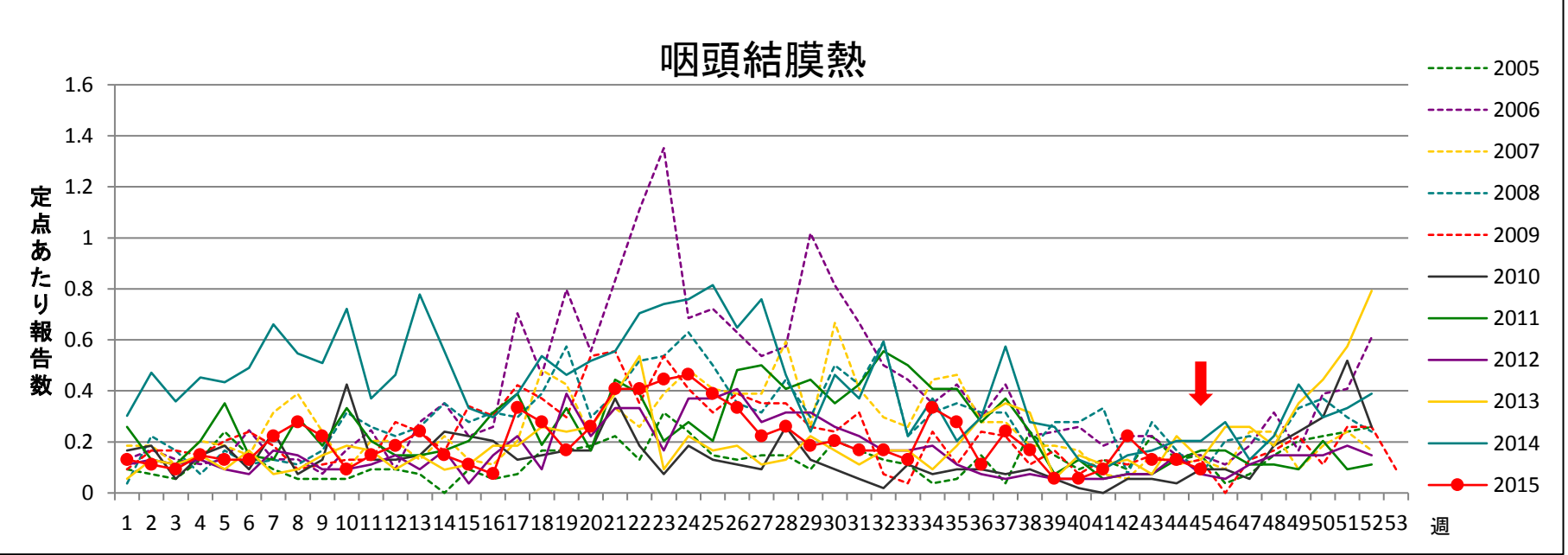
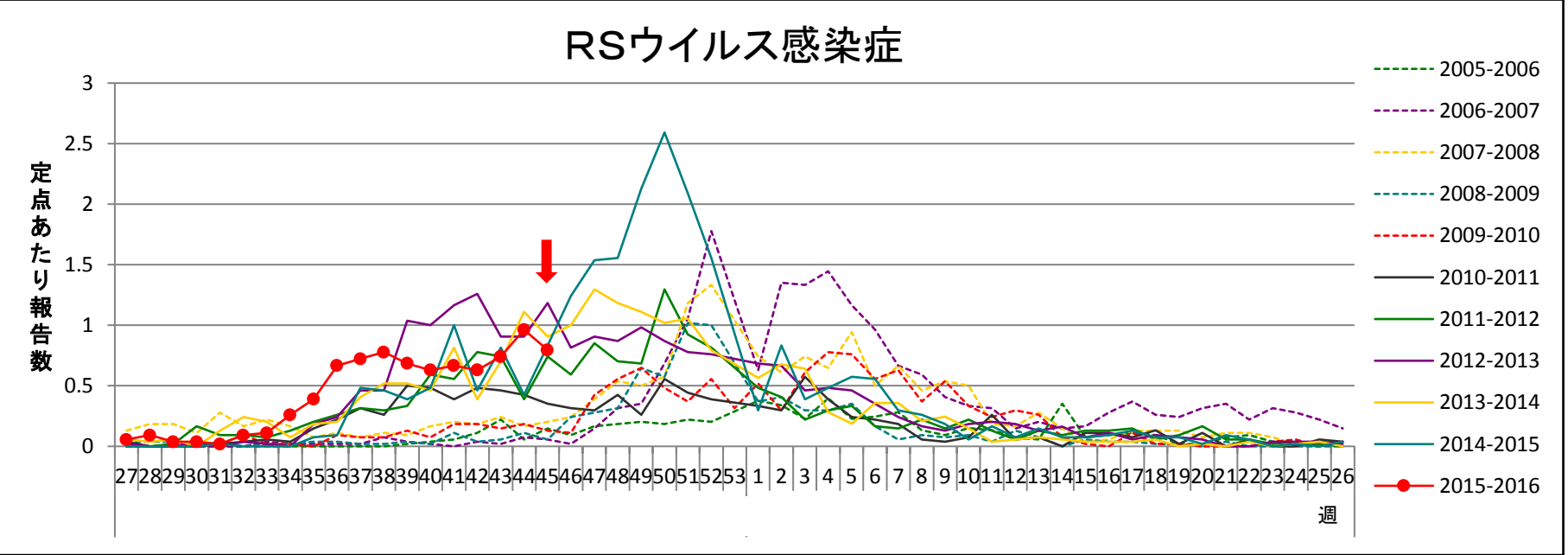
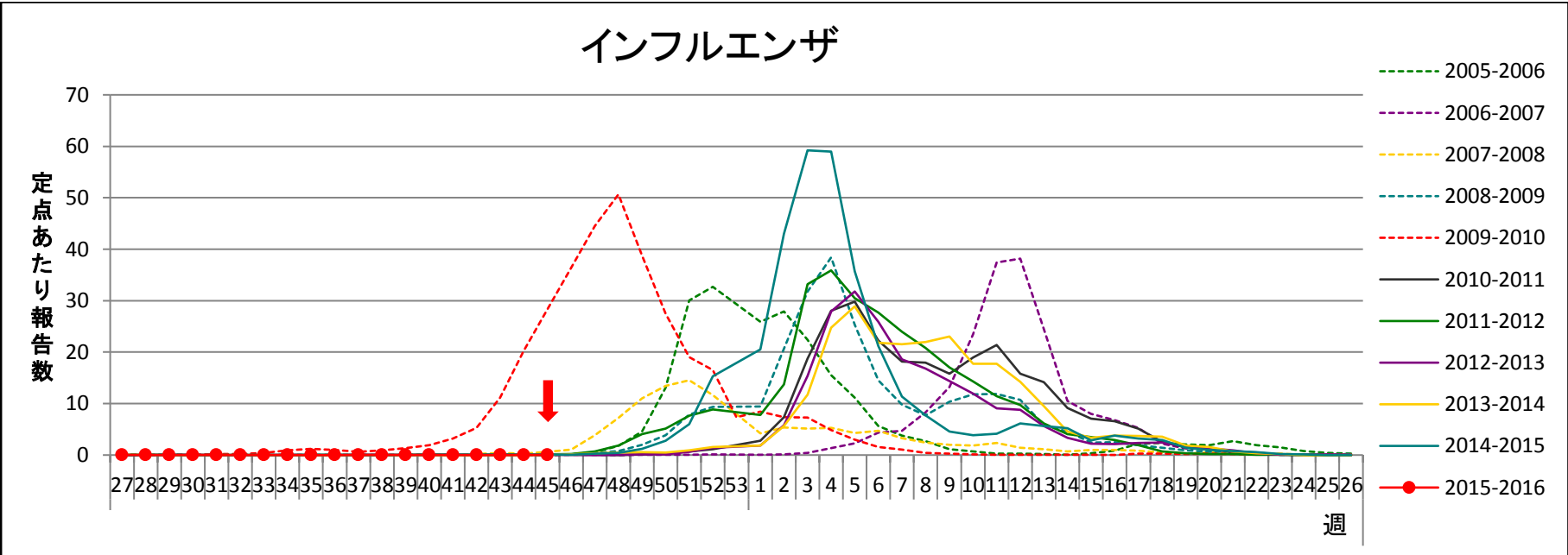
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

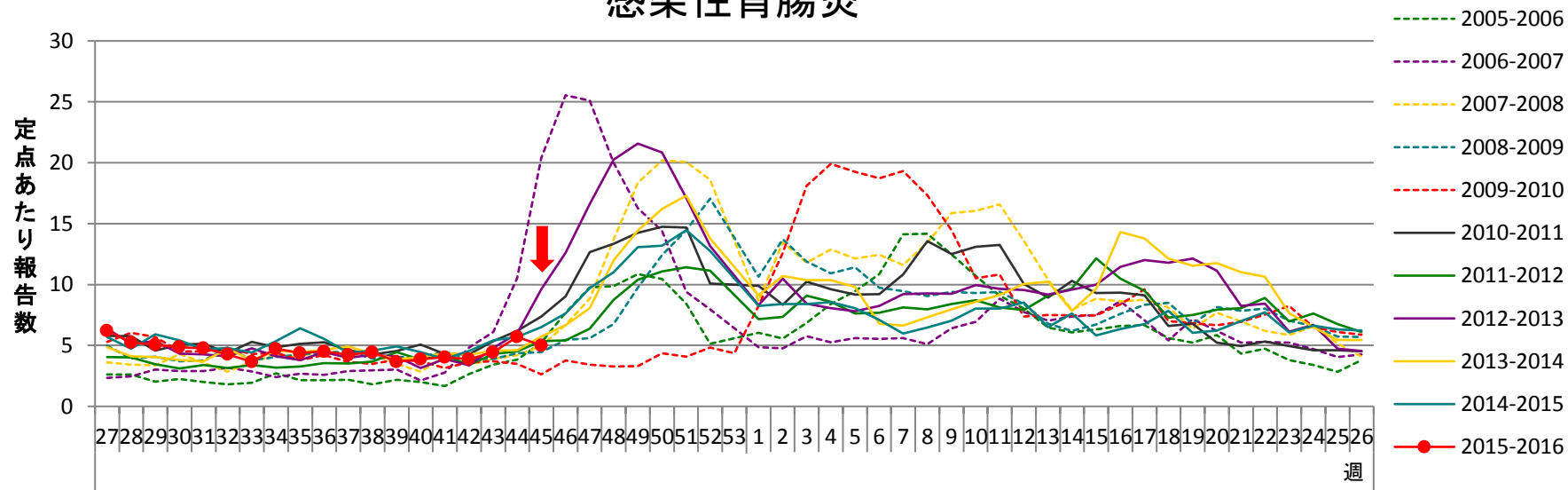
(- : 0)

2015 年 45 週

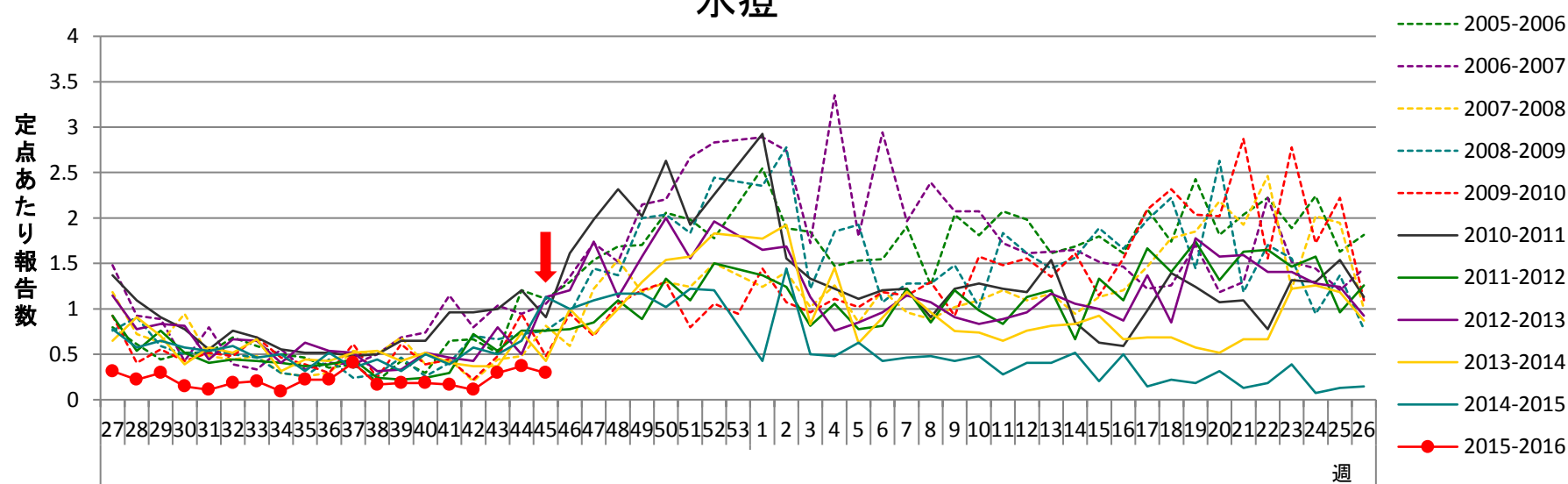
分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	2	308	384	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	2	－	腸管出血性大腸菌感染症	1	61	71
	腸チフス	－	－	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	3	2	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	8
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサナル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	－	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	2	デング熱	－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	－	1	4	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	2	－	野兔病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	24	32	レプトスピラ症	－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	16	12	ウイルス性肝炎*3	－	7	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	29	12
	急性脳炎*4	－	11	9	クリプトスポリジウム症	－	1	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	1	3	後天性免疫不全症候群	－	19	21	ジアルジア症	－	3	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	27	27
	水痘(入院例に限る。)	1	5	6	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	15	21
	播種性クリプトコックス症	－	1	1	破傷風	－	－	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2	風しん	－	－	2	麻しん	－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



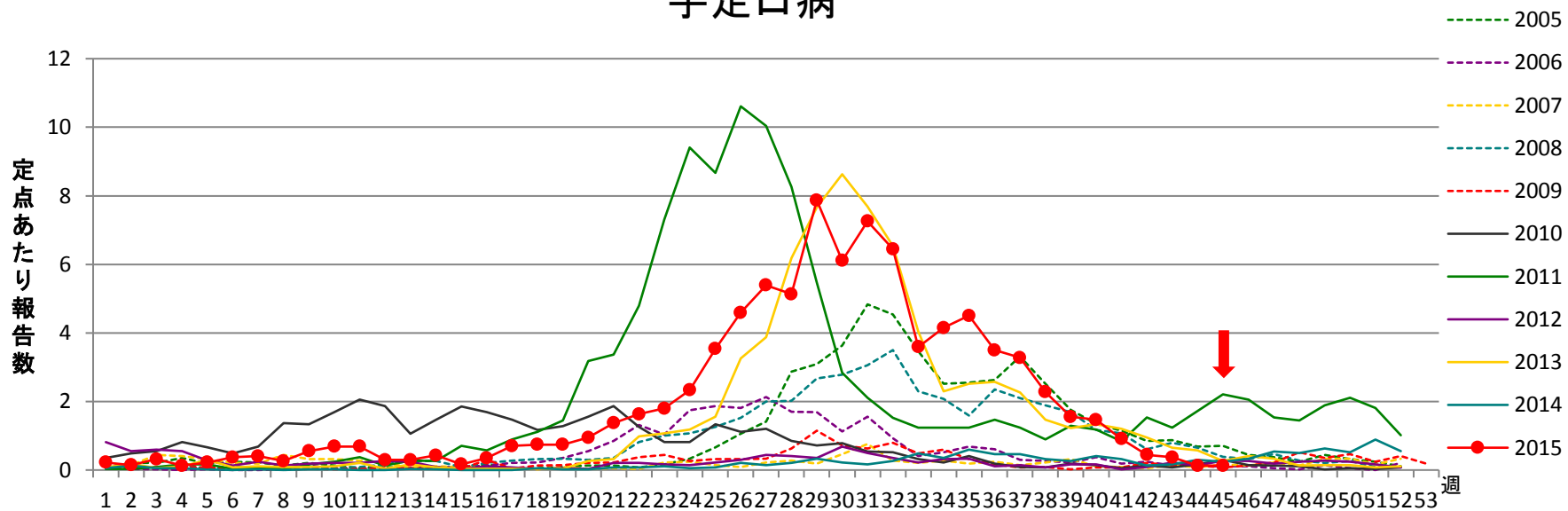
感染性胃腸炎



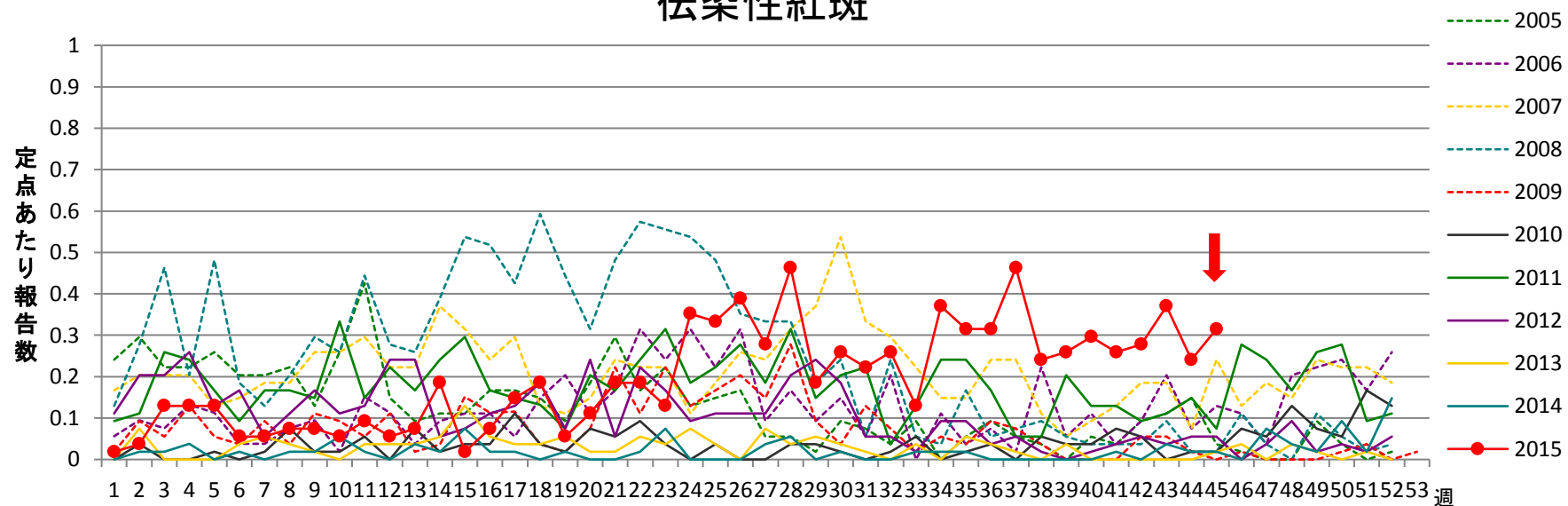
水痘



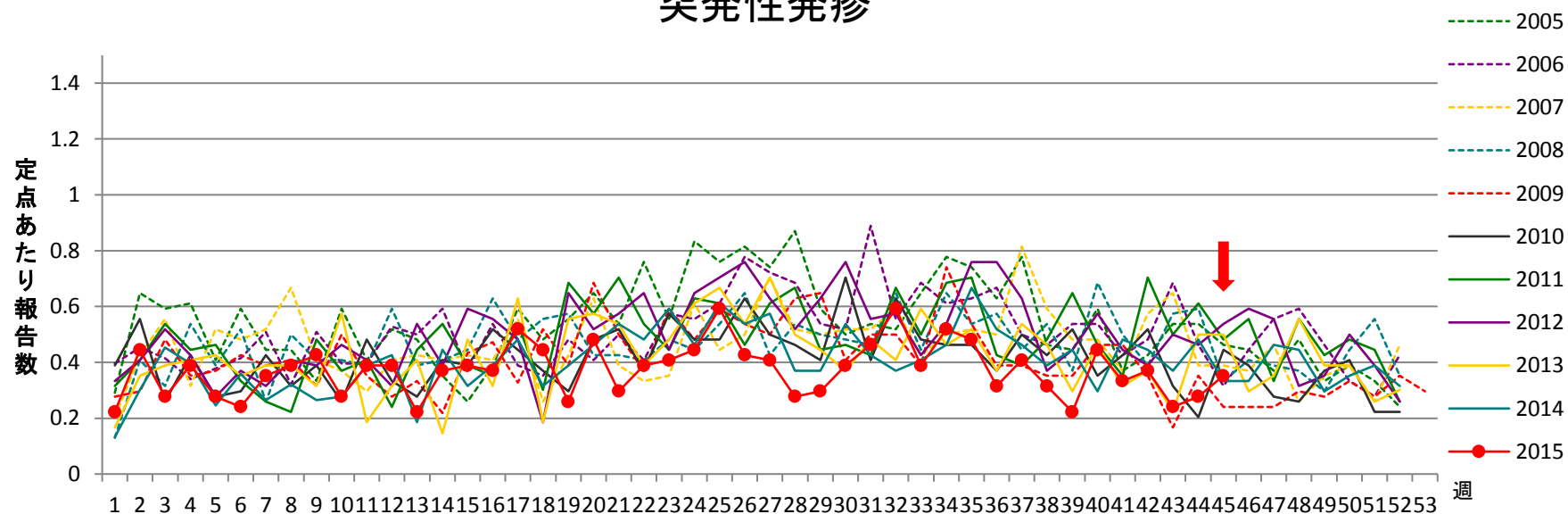
手足口病



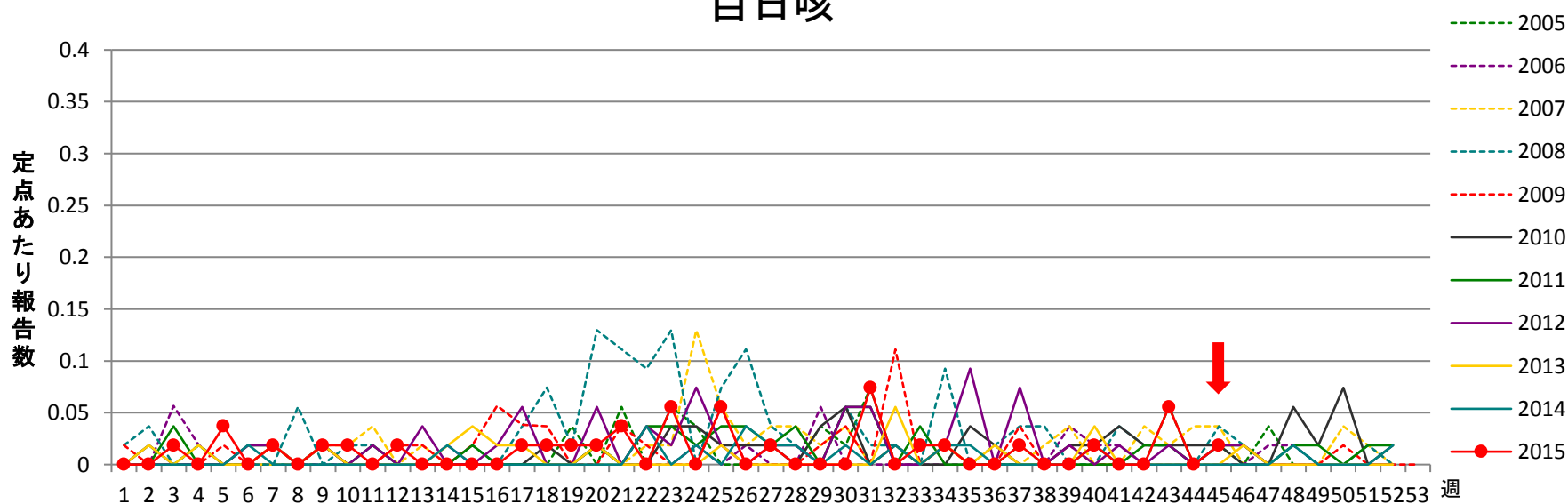
伝染性紅斑



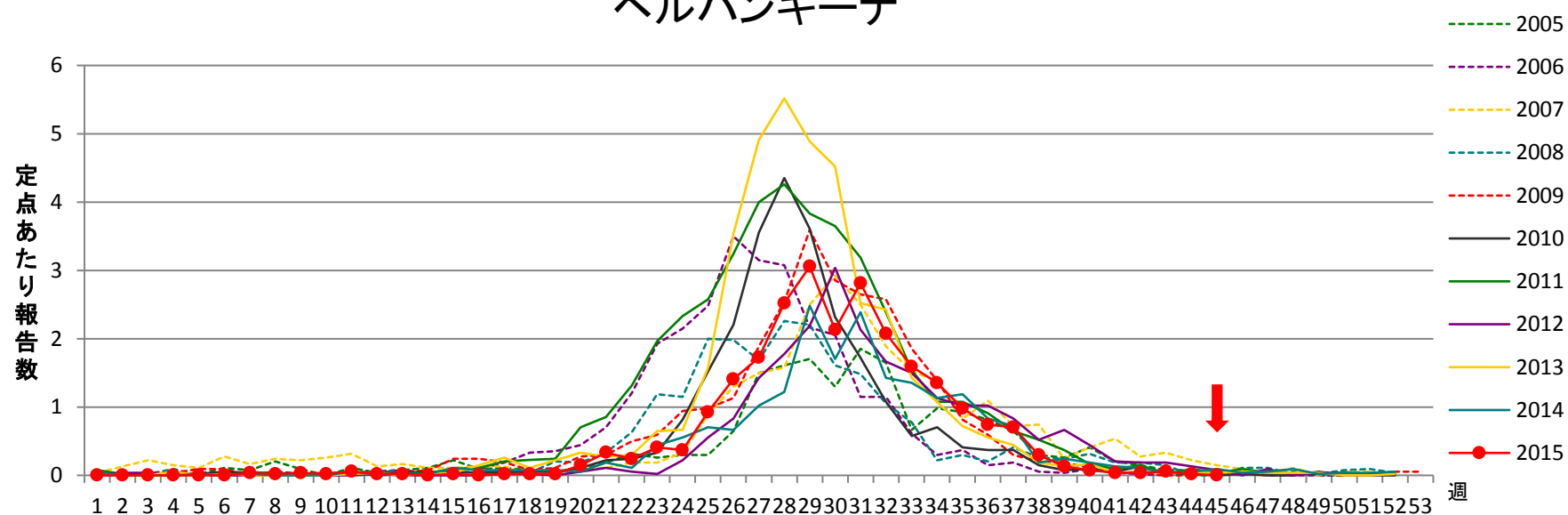
突発性発疹



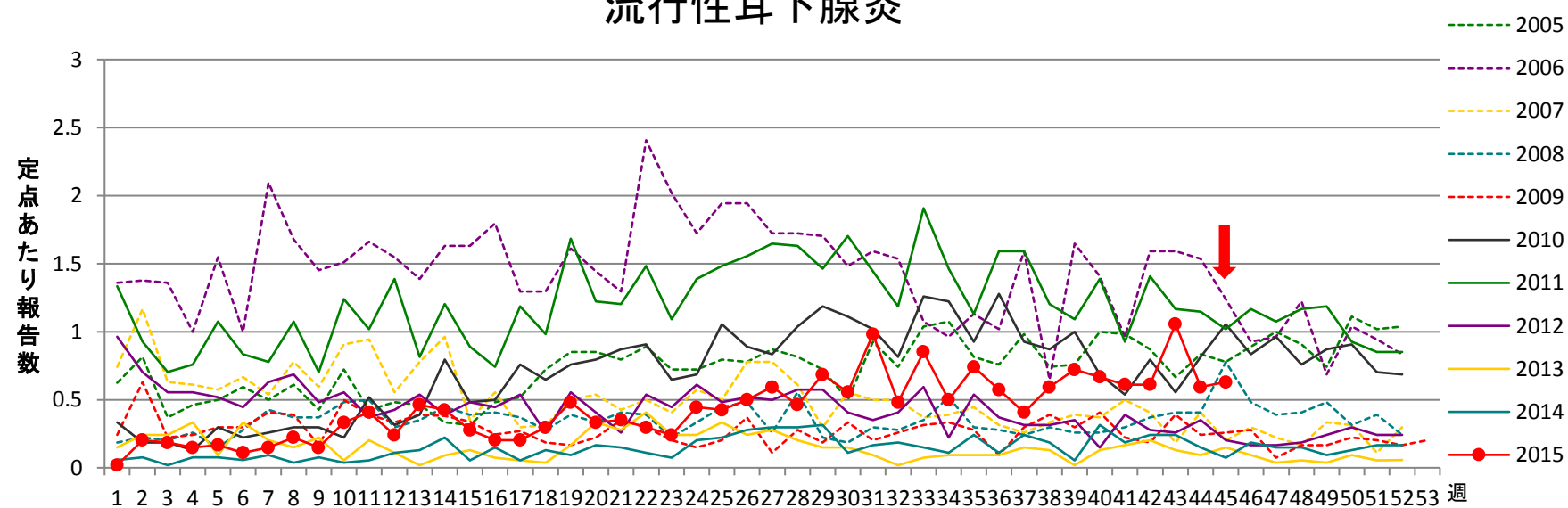
百日咳



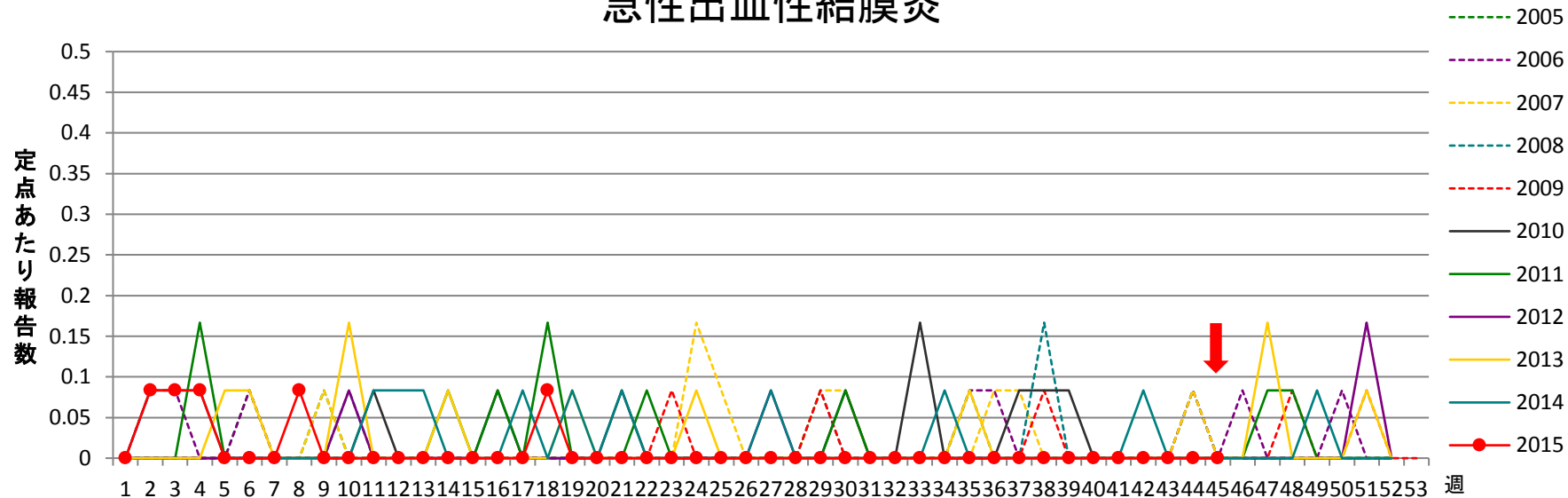
ヘルパンギーナ



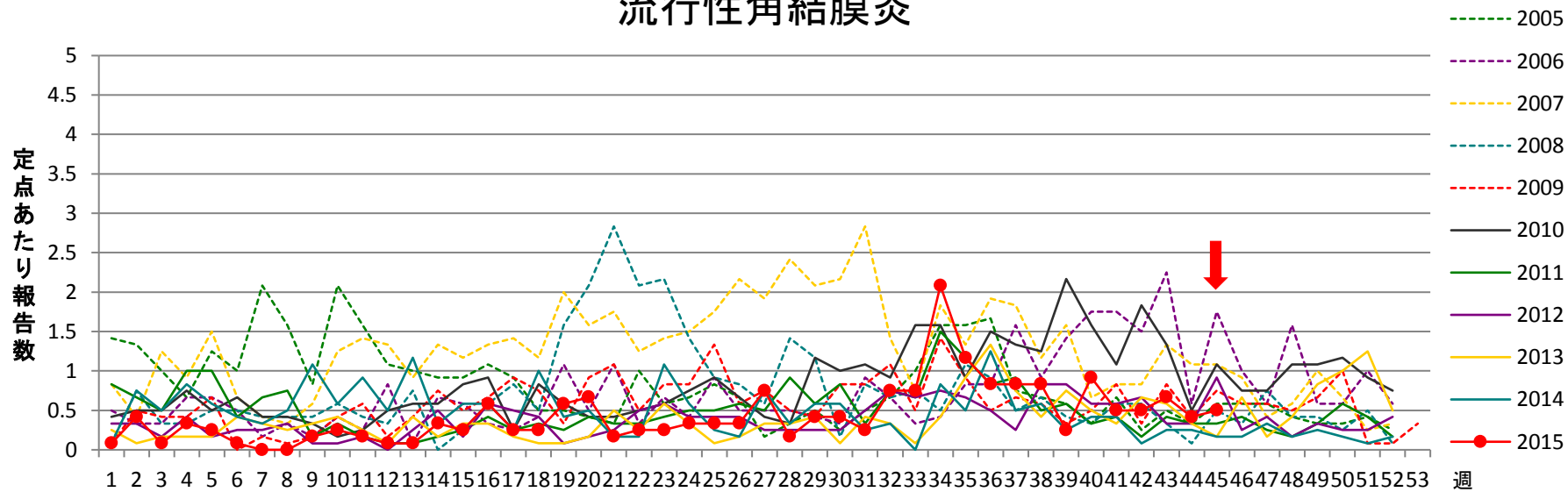
流行性耳下腺炎



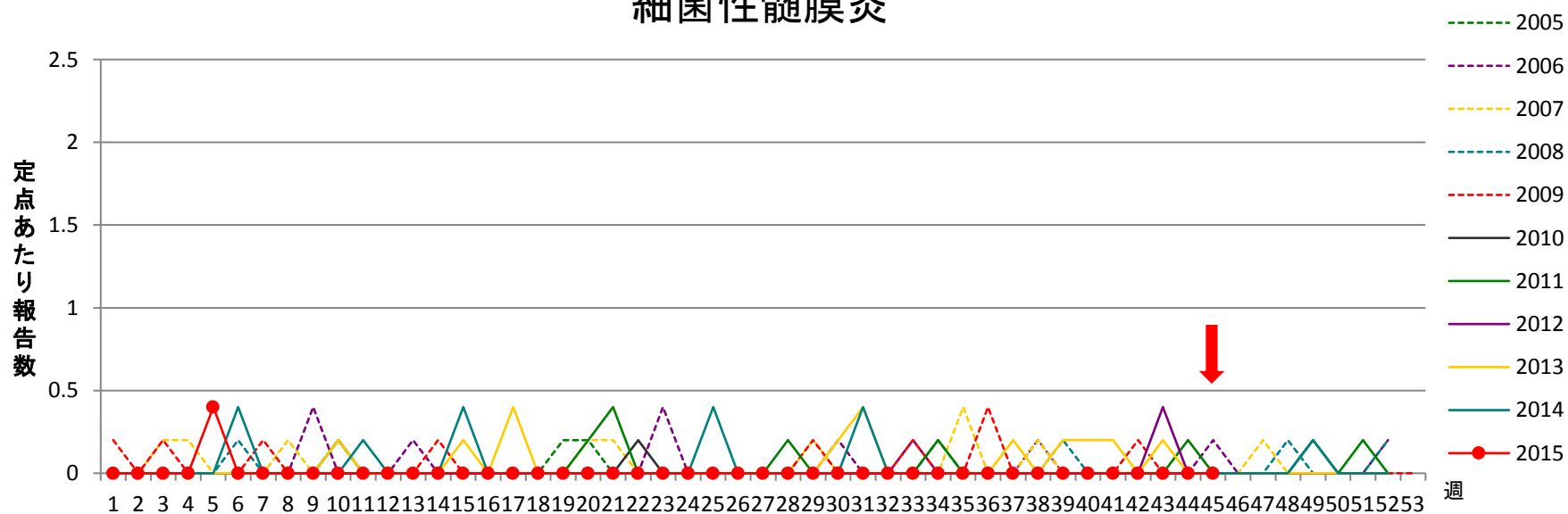
急性出血性結膜炎



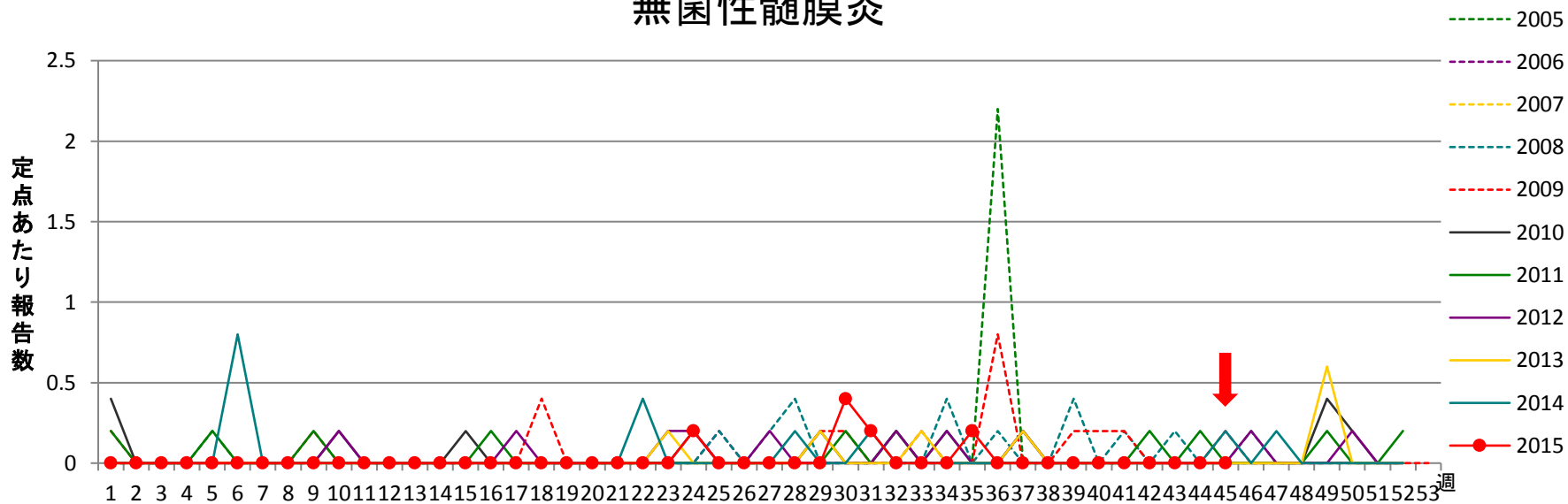
流行性角結膜炎



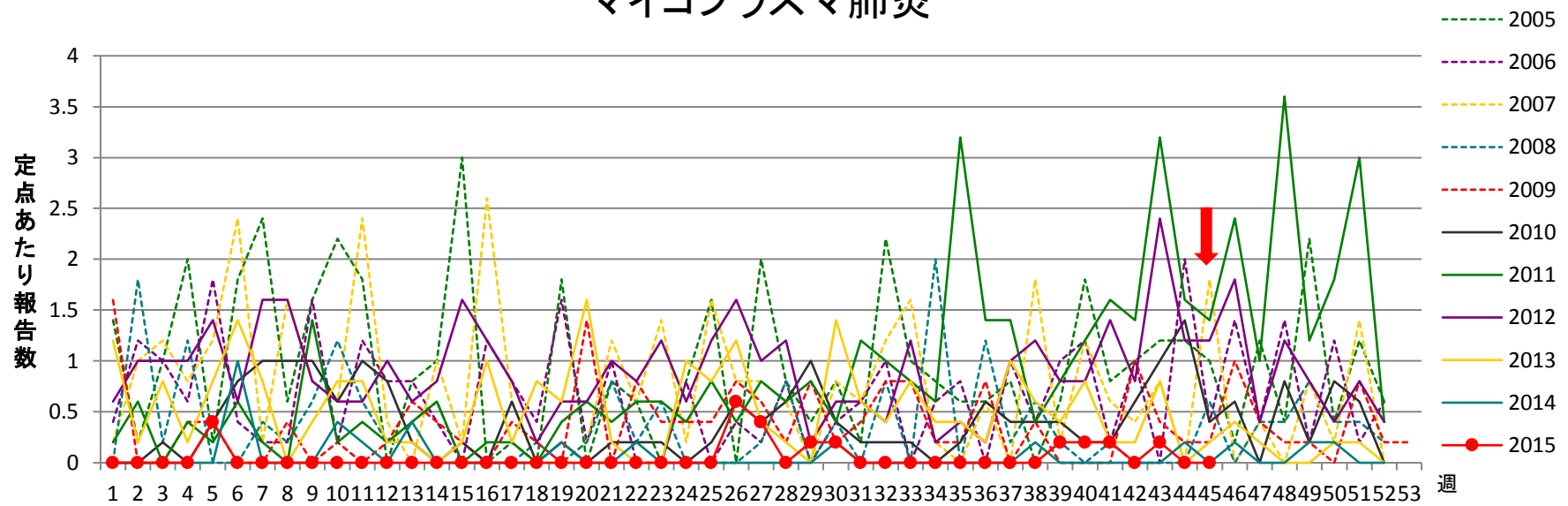
細菌性髄膜炎



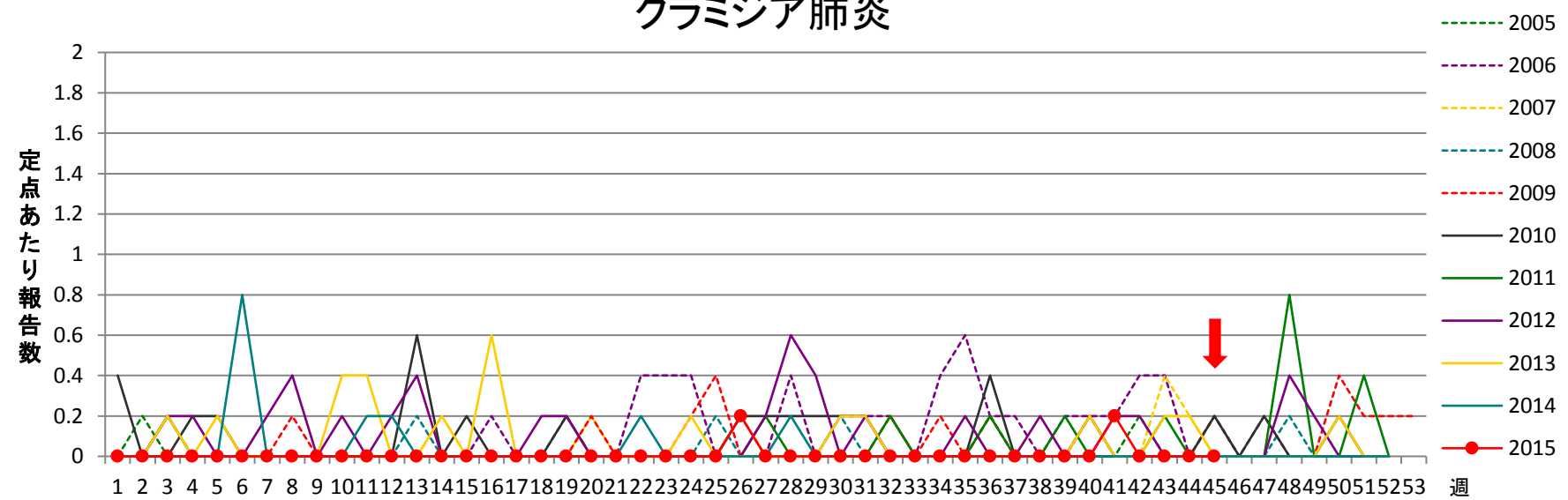
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

